

## Chapter 9: Qualitative Procedure

### ■ はじめに

質的研究の手順は、量的研究の方法とは異なる学問的な研究への研究方法を説明する。質的研究は、異なった哲学に関する仮定、研究の計画、データ収集と分析と解釈の方法を用いる。

このチャプターでは、多くの観点を組み合わせ、一般的な手順を与えることを試みている。

### ■ The Characteristics of Qualitative Research

長年、proposal の執筆者は質的研究の特徴について論じ、その正当性で読み手を納得させなければならなかった。Proposal のセクションについての筆者の提案は次の通りである。

- proposal に関して読者の必要性を見直す。読者が質的研究の特徴に十分に精通しているかどうか判断する。
- もし知識に問題があるなら、質的研究の基本的な特徴を示す。
- 質的研究の特徴に関して筆者が作成したリストは、伝統的な観点と新たな支持がある内省的な観点の両方を捉えている。
  - **Natural setting**—質的研究者は、参加者が研究のもとで問題を経験しているところでデータを集める傾向がある。
  - **Researcher as key instrument**—質的研究者は、資料を調査すること、行動を観察することあるいは参加者にインタビューをすることを通してデータを集める。
  - **Multiple sources of data**—たった1つの情報源に頼るのではなく、多様なデータを集める。
  - **Inductive data analysis**—データをより抽象的なまとまりに整理していくことによって、細部から一般論へというように傾向や区分、主題を確立していく。
  - **Participants' meanings**—参加者が抱いている問題についての重要性を知ることによって焦点を当てる。
  - **Emergent design**—研究過程においては不意に起こるものもある。研究のための最初の計画はしっかりと規定されることはできず、研究過程の全ての段階は変わるかもしれない。
  - **Theoretical lens**—研究を考察するために、文化の概念や民族誌学というようなレンズをたびたび使う。
  - **Interpretive**—質的研究は、研究者が見たもの・聞いたもの・理解したものの意味を理解する解釈的な研究のかたちである。
  - **Holistic account**—質的研究者は、問題の複雑な理解を発展させようと試みる。

### ■ Strategies of Inquiry

質的研究者は、**narrative**、現象論、民族誌学、事例研究、根拠のある学説というような可能性の中から選ぶということを筆者は勧めている。筆者がこの 5 つを選んだ理由は、今日の社会科学と医療科学で広く普及しているからである。

質的研究の **proposal** のための手順を書くとき、次の **research tips** を考慮に入れる。

- 研究への具体的な方法を確認する
- 計画についての背景情報を用意する
- なぜそれが適切な計画なのかを論じる
- その計画の使用が、問題のタイプ・データ収集のかたち・データ分析のステップ・最終 **narrative** をどのように方向づけるかを確認する

#### ■ The Researcher's Role

- 背景データを与える過去の経験についての主張を含める
- 研究場所における研究者と参加者の関係にコメントする
- 参加者の権利を守るために **the Institutional Review Board** から許可を得るために経た段階を表示する
- その環境に入ることと、参加者や状態を研究するための許可を得るために経た段階を論じる
- 生じるかもしれない扱いに注意を要する倫理的な問題についてコメントする

#### ■ Data Collection Procedures

- 研究のために目的を持って選ばれた場所や個人を確認する。質的研究の背後にある考えは、研究者が問題やリサーチクエスチョンを理解するために最も助けとなる参加者や場所を目的を持って選ぶということである。
- 集められるデータのタイプを表示する。
  - **Qualitative observations** は、研究において個人のふるまいや活動に注目する
  - **Qualitative interviews** では、研究者は面と向かって参加者にインタビューを行ったり電話を使ってインタビューを行ったり、あるいは 6~8 人のグループを作ってそのグループに焦点を当ててインタビューを行ったりする。
  - 調査の過程で研究者は **qualitative documents** を集めるかもしれない。それらは公的な書類であるかもしれないし、あるいは私的な書類であるかもしれない。
  - 質的データの最後のカテゴリーは **qualitative audio and visual materials** から成り立つ。
- データ収集に関する議論では、タイプを具体的にし、それぞれのタイプの強さと弱さを扱っている主張を含める。
- 典型的な観察やインタビューを越えるデータ収集のタイプを含める。

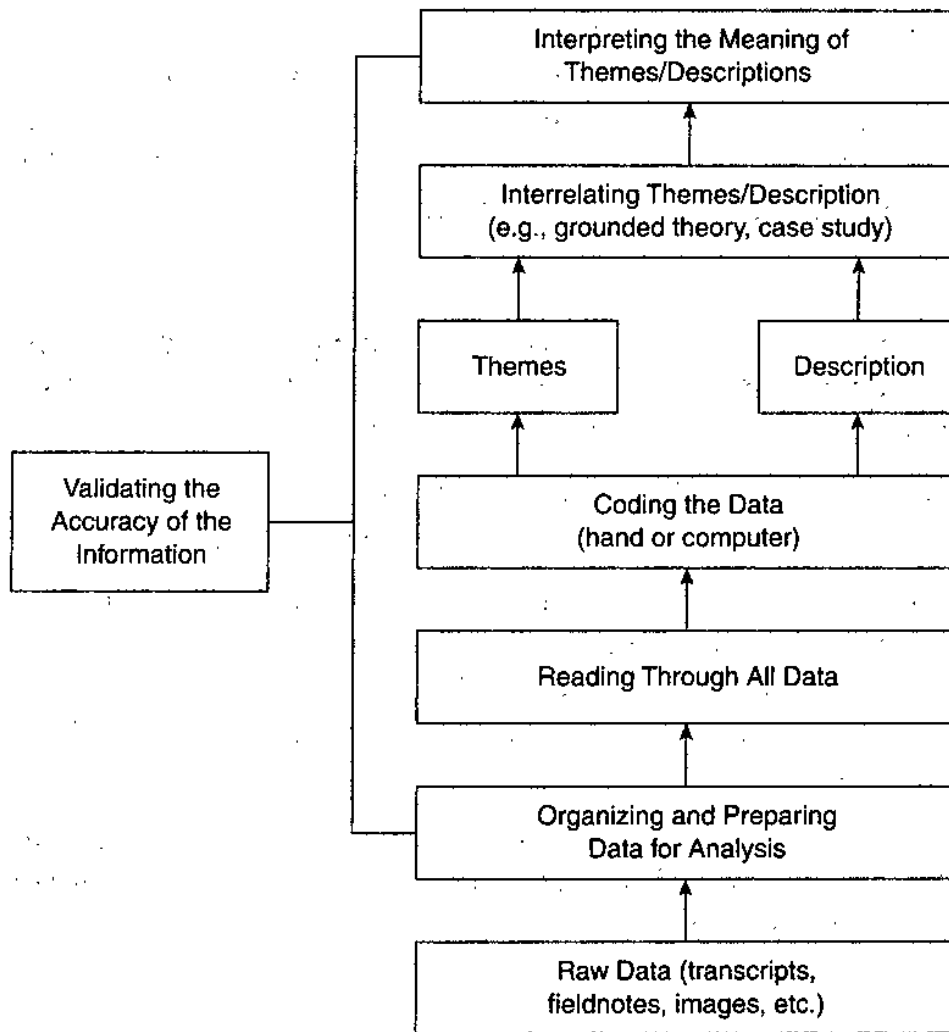
#### ■ Data Recording Procedures

Proposal は、研究者が何を記録するのかどのような手順で記録するのかを確認すべきである。

- 観察に基づくデータを記録するために protocol を使う。質的研究の間、研究者は複数の観察に従事し、観察中は情報の記録のために observational protocol を使う。
- 質的インタビュー中、質問をして答えを記録するために interview protocol を使う。この protocol は次の構成要素を含む
  - ・ 項目(日付、場所、インタビューする人・される人)
  - ・ インタビューする人への指示
  - ・ 質問
  - ・ 4~5 問の精査
  - ・ 質問と返答の間に余白
  - ・ 感謝の表明
- 研究者は、手書きのノートや録音、ビデオ録画などを使ってインタビューからの情報を記録する。
- 書類や視覚資料の記録は、ノートを取る研究者に基づきうる。

#### ■ Data Analysis and Interpretation

- ・ 研究を通して、データについて断続的な影響を含み、分析的な質問をしてメモを書くという継続中の過程である。
- ・ データ分析は、自由回答形式のデータを集めることも含む。
- ・ 研究者が質的データを集め、それを分析し、4~5 つのテーマを報告するというのは基本的な質的分析だと筆者は考えている。今日、多くの質的研究者は研究の質的ストラテジーに手順を加えるために一般的な分析を越えている。研究の過程は、ある 1 つの分析的ストラテジーから他のストラテジーへと異なっている。
- ・ データ分析の過程の概観は次の図のようになっている。



**Figure 9.1** Data Analysis in Qualitative Research

- Step 1. 分析のためにデータを整理して準備する
- Step 2. 全てのデータを終わりまで読む
- Step 3. 符号化を用いて詳細な分析を始める
- Step 4. 環境や人々の記述を生成するために coding process を使う
- Step 5. 質的 narrative においてテーマをどのように説明するかを進歩させる
- Step 6. データの解釈や意味を考える

■ Reliability, Validity, and Generalizability

- Qualitative validity…研究者は特定の手順を使用することによって結果の正確さを調べる。

- **Qualitative reliability**…研究者の研究方法が異なる研究者や異なるプロジェクトと矛盾しないことを示す。
- **Reliability procedures**
  - ・ 明らかな間違いがないか確かめるためにトランスクリプトを確かめる
  - ・ 符号化の過程において符号の意味に変化がないことを確認する
  - ・ チームで行う研究は、ミーティングの内容を記録したり分析を共有したりすることによって情報伝達を調整する
  - ・ 異なる研究者、独立して引き出された結果の比較によって、符号を照合確認する
- **Validity** は、質的研究の強さの 1 つであり、研究で明らかになったことが研究者、参加者あるいは読み手の観点から正確であるかを決めることに基づいている。
- 研究者は積極的に、**validity strategies** を **proposal** へ組み入れる。次に挙げるのは、8 つの主要な **strategies** である。
  - ・ 証拠を吟味し、筋の通った根拠を確立するために、異なる情報源のデータを 3 つの方法で集める
  - ・ 質的な研究成果の正確さを明らかにするために **member checking** を用いる
  - ・ 研究成果を伝えるために、豊かで密な説明を行う
  - ・ 研究にもたらしめている先入観を明らかにする
  - ・ テーマに背いている否定的な情報や矛盾した情報も示す
  - ・ その分野で長期的な時間を費やす
  - ・ 説明の正確さを高めるために **peer debriefing** を用いる
  - ・ プロジェクト全体を見直すために **external auditor** を用いる
- **Qualitative generalization**…研究の意図は、個人や場所に対して研究成果を一般化することではないので、質的研究の限られた方法において使用される用語

#### ■ The Qualitative Write-up

質的研究の結果をレポートする基本的な手順は、データからのテーマと記述を発展させ、環境や個人の詳細な説明と参加者の多様な観点を伝えるテーマと記述を示す。

具体的な段階において、いくつかの **writing strategies** は次のようになっている。

- ・ 引用文を用い、本文に埋め込む引用文の長さに変化を与える
- ・ 文化的な感性を反映するために異言語における会話をレポートする
- ・ 表を用いて情報を示す
- ・ 符号を考えたりラベル付けをするために参加者の言葉づかいを使用する
- ・ 引用と作者の解釈を絡み合わせる
- ・ メタファーやアナロジーを用いる

- 典型的に使われている **narrative approach** を使用する
- **narrative outcome** が論理や文献に示されていることとどのように比較されるであろうかを説明する

## ■ The Qualitative Research Paradigm

質的研究のパラダイムは、文化人類学とアメリカの社会学にそのルーツがある。つい最近、教育的な研究に採用されてきた。

質的研究は量的研究の方法と区別されうると学者は主張する。次に挙げられているものは、さまざまな研究者によって示された質的研究の特徴に関する仮定である。

1. 人間の振る舞いや出来事が起こる自然な環境で行われる。
2. 質的研究は、量的研究の構想とは異なる仮定に基づいている。
3. データ収集において、研究者が主要な媒介者となる。
4. 質的研究のデータは記述的であり、言葉や画像で報告される。
5. 参加者の認知や経験に焦点を当てる。
6. 結果だけでなく生じている過程にも焦点を当てる。
7. 個別的具体的事例の解釈が利用される。
8. 処理された結果において新しく独立した構想である。
9. 研究の伝統は、暗黙の知識を利用することに頼っている。
10. 客観性と真実はどちらの研究の伝統にも重大なものである。

## ■ The Researcher's Role

質的研究では特に、データ収集の主要な媒介者として研究者は主観的な価値観や想定、先入観を研究の初めに識別する必要がある。研究者による研究の環境への貢献は有益で効果的なものになりうる。

## ■ Summary

- 質的研究の一般的な特徴として次のことが挙げられる。
  - 自然な環境で研究が行われる
  - データ収集の媒介者として研究者に頼る
  - データ収集に多様な方法を用いる
  - 帰納的である
  - 参加者の重要性に基づく
  - 新しく独立したものである
  - 理論的なレンズを用いることがよくある
  - 解釈的である
  - 全体論的である

- 研究の手段として次の方法が挙げられている。
  - 個々の研究(narrative、現象論)
  - 過程や活動、出来事の説明(事例研究、根拠のある理論)
  - 幅広い文化を共有する個々やグループの振る舞いの調査(民族誌学)※どの方法を選択したかということを示し、それが支持される必要がある。
  
- データ分析の一般的なステップは次のようになる。
  - データを整理して準備する
  - 最初に情報を最後まで読む
  - データを符号化する
  - 符号の説明とテーマに関する分析から発展させる
  - 結果を図表やグラフで表す
  - その結果を解釈する
  
- 解釈には次のことを含む。
  - 学んできたことを述べる
  - 結果を過去の文献と比較する
  - 質問を提起する
  - 改善のために協議事項を提言する

最後に、**proposal** に付加的に重要なステップは、結果の正確さを確認し、手順の信頼性を証明し、普遍性の役割を考察するために使用されるだろう手段について言及することである。